

裏と表

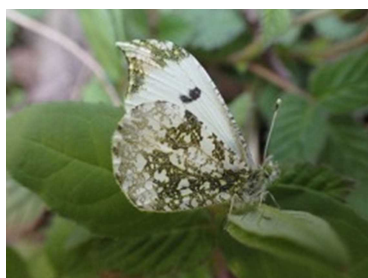
1. ツマキチョウ(地図中①地点)

ソメイヨシノの花が終わると、モンシロチョウには少し弱々しいと感じるシロチョウが飛び始めます。明るい林間や草地を好み、なかなか止まってくれません。年1回、4月中下旬の短い期間だけ出現します。日が陰ると活動を停止してしまいます。休止しているところを見つけるのは至難の技です。理由は化けているからです。

成虫のオスの前翅表の尖った先端に黄色部分があるためつけられた種名ですが、後翅の裏面は茶色の網目模様になっています。

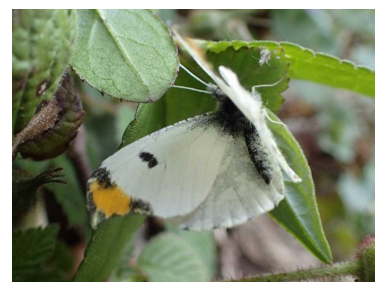
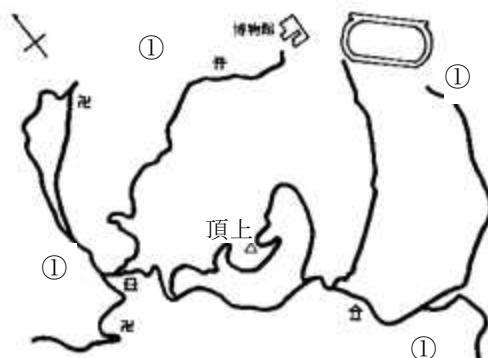
止まる時は、枯れ草のある場所で翅をたたんでしまいます。そこに降りたと思って行ってみても見つかりません。見事な擬態になっているのです。止まる場所も模様に合わせています。

幼虫の食草はモンシロチョウと同じアブラナ科植物ですが、野生種のタネツケバナやイヌガラシ



網目模様の後翅の裏面

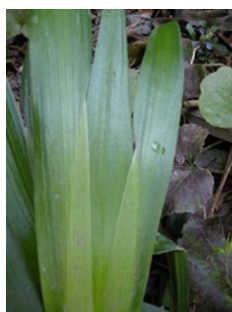
が主となるようです。しかも、花や果実を好みます。したがって1株の草にたくさんの幼虫がいることはありません。5月に花や果実が食い荒らされた部分を見つけると、青虫に出会えるかもしれません。



ツマキチョウの雄

2. シャガの葉

薄青色のシャガの花が目立つようになりました。アヤメの仲間は葉が扇型に広がって付いています。この平たい葉の裏表を調べてみましょう。根元は茎と若い葉を包み込んで切れ込みのようになっていますが、少し上方へいくと茎側にあった切れ込みの面がなくなり、表側にあった面が合わさって平たくなっています。



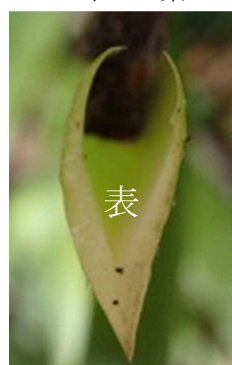
シャガの葉

一般に葉は、はじめは茎を抱えています。成長すると茎から離れて水平方向に広がります。葉の上を向いている光を受ける面を表、反対側を裏といい、表は茎に対面していたこととなります。

シャガの葉は、茎を抱いていた面が葉の表ということになるのですが、この部分は巻いていた次の葉から離れるところ(⇨部分)で消失します。すなわち、葉の大部分は裏側だった面が全体を覆っていることとなります。このような葉を単面葉といいます。裏面だけでできているという意味です。切断して断面を見ると、内部は柔らかい組織で埋まっています。裏があれば表があるという表裏一体ではないのです。



表面の消失する所



シャガの葉の表面

ネギの仲間も同じように単面葉です。内部に空洞がありますが、空洞に面する部分は表ではありません。視点を変えて観察するのも面白いものです。